

# 絆

# KIZUNA

公認会計士白門会 NO. 26

## 中央大学への思い

有限責任あずさ監査法人 理事長  
KPMG ジャパン CEO  
高波 博之



2019年7月にあずさ監査法人の理事長に就任いたしました高波です。1983年(昭和58年)3月末の卒業生です。

さてこの絆に寄稿するにあたって、ふと考えたのですが、自分にとって「中央大学って何だったのだろう」と。大変失礼な話ですが、当初弁護士になろうと思って、国立をはじめ軒並み法学部を受けたのですが、結果、一つだけ、日程の都合上、たまたま目に入った中央大学商学部を受け、とりあえず一番上に書かれていた会計学科を選んだ記憶があります。結果として、この商学部会計学科のみが合格通知をくれましたので、一浪している身でもあり、おとなしく入学しました。ですが、正直、自分の思い描いていた弁護士の夢も潰え、何の目的もない商学部ということで、相当落ち込んでいました。なんせ田舎(秋田)育ちで、入学した時点では、公認会計士という資格の存在すら知らなかったのですから。その時に東京で私の世話をしてくれた伯母に言われた一言が、今にして思えば、大変重みがある言葉でした。「あなたにとって、そこが一番いいところだから、入学することになったのです。神様がちゃんと導いてくれ

ています。感謝下さい。」と。この言葉、その後、自分に対して常に叱咤激励する言葉になるし、現実には大変納得感のある言葉となります。

その言葉のおかげもあり、とりあえず、ポジティブ思考は取り戻せたのですが、だからと言って、何もせず漫然と大学生活を送ることになります。もちろん当時の一般的な大学生に漏れることなく、授業の必要最低限しか出席せず、成績もほぼ壊滅状態。さすがに親から学費をいただいている身ですから、何もしないのは気が引けるので、大学時代にとりあえず本を読もうと考え、その中で伊東光晴先生の「ケインズ」を読んで、さらに浅野先生の経済学の授業に出てこれは結構面白いということで、なんとなく理論経済学にのめりこみます。3年からのゼミは浅野先生のところ、と思ったのですが、これが結構人気で、なかなか難しいことがわかりました。そこで、そういえば女子に人気の当時新進気鋭の中村達也先生のゼミは、入ゼミ試験が論文20枚ということで、意外にチャンスありと考え、結果として期待した女子は一人もいませんでしたが、なかなかユニークなメンバーがそろったゼミに入ることができました。(ユニー

クなメンバーって、それはそうです。商学部に入って会計とか経営ではなく、雲をつかむような経済学を選ぶだけでも変なメンバーで、今年に一回は名誉教授となられた中村先生と飲み会をしています。このまえは先生から「枕草子を読もう」という、とても迷惑な課題？をもらっています。）このゼミは、当初私の思い描いた理論経済学ではなく、どちらかという実社会の中で処方箋を考え実践に役立つ理論の構築を行うことを研究する感じだったのでしょうか。ですからガルブレイスやシュンペーターなどの思考に近いものがおおく、当時はエントロピー、ゼロサム社会などを論じ合ったことを覚えています。でもこのゼミで一番学んだことが、「先入観を持たず常に白紙の心をもってすべてのことに臨み、自ら理解した上は、自らの美学をもって批判、あるいは賛同を表明すべき」という姿勢です。もともとマルクス経済学を蔑んでいた自分の愚かさに気づき、同時に理解した上は明確にマルクス理論を正々堂々と批判してよいことに気づいたのは、今にして思うと、大変適切で、あらゆる場面で自分が判断を下すうえで、大切な指針となっていると思います。

さてお判りでしょうか。そうです。私が現在ある根幹をこの中央大学商学部会計学科在学時代に本当に大切なことを二つ学んだのです。大学関連の冊子にこのようなことを書くことが適切であるかどうかはわかりませんが、たぶん大学時代は、ほぼ大学に来ないノンポリ学生の典型であったことは明白です。

ですが、何より大切なこと、一つは「今ある自分が一番良い選択の結果である。」と思うことです。すなわち「あの時こうすれば…この時こうすれば…」という不遇感を持ち続けると、それ自体は永久に実現しないことであるので、生涯、不遇感と満たされない後ろ向きの人生になってしまいます。常に自己肯定と「人生に無駄はない」と思って進むポジティブ思想が大切であるということ

です。私自身は、法学部でなく結果として商学部に入り、公認会計士となったことは本当に伯母の言うとおりになったという実感です。

もう一つは「常に白紙の心をもって」という考え方です。これはもちろん全てにおいて当てはまる真理と思いますが、まさに監査人にとっては最も大切な「客観性と心証を得る」ということですね。このことを体感できたことは本当にラッキーなことだったと、今でも中村先生には感謝しています。

さて最後に、さすがに授業にも出なかった自分を肯定するほど、凶々しくはありませんが、昨今の新入社員を見ていると、真面目に授業に取り組み、よい成績を収め、それが何に役立ち、何をしたら将来どうなるといった、極めて具体的で、すぐ答えを見出そうとする傾向が高いです。よくリベラルアーツが大切という話を聞きます。そうすると今の若人は「何を読めばよいですか?」「何を学んだらよいですか?」と聞いてきます。すでにその段階で教養にはならず知識にしかならないということが彼らには理解できません。これが日本の教育の一番の欠陥と思います。高校までは知識偏重であることもやむを得ないと思いますが、やはり大学は自主性を重んじ、彼らを大人として扱ってあげることが、最も大切なことのように思います。大学4年間ぐらい自分の好きなことだけさせて、もしかしたら0.01%の学生の好きなことが特定の学問であるかもしれません、これが天才を生む土壌だと思います。

中央大学は昔から実学を重視する伝統のある大学だと思います。職業柄、いろいろな会社に行きますと実務的なところで支えている中央大学出身者が他の大学に比して多く存在するように思います。これは素敵な特徴ですね。この自律的にしっかりとした責任感のある人材の輩出という伝統を維持し、本来的な価値のある人材の輩出を継続していってくれることを切に願っております。

# 公認会計士白門会会長に就任して

公認会計士白門会  
会 長  
成 田 智 弘



2019年7月5日に開催された第27回（平成29年度）の公認会計士白門会の定時総会において会長に選任され、就任した成田智弘です。初代会長川北博先生から数えて第14代目の会長となります。

公認会計士白門会は、会員相互の懇親のみでなく、中央大学における特殊講義の開催や監査法人説明会の開催、中央大学学会の他支部との交流など、母校に貢献する活動に加え、公認会計士業界の発展に資するため、公認会計士協会の活動、学会活動、他大学の会計人会との交流など内外で幅広く活動し、その活動は広く認められています。このような伝統ある公認会計士白門会の会長に就任し、その重責を日々感じております。

本会の会員が各方面において活躍できるのは、歴代会長や歴代執行部そして先輩諸先生方の努力と支援の賜物であることは間違いありません。公認会計士白門会の歴代の会長、幹事長は表のようになっております。自らを除けば、いずれも当会の活動のみでなく、公認会計士の社会的地位を高め、公認会計士業務の拡大、提供する業務の高い品質の確保、人材の育成等々幅広く、我が国に留まらず国際的な会計士業界全体、さらには社会全体に顕著な貢献をされた方々ばかりです。この伝統を損なわず、かつ、将来に向けて発展させていくために、努力したいと考えています

## <歴代会長、幹事長>

会 長			幹 事 長		
	在 任 期 間	氏 名		在 任 期 間	氏 名
初代	第 1 期 (平成 4 年度)	川北 博 先生	初代	第 1 期 (平成 4 年度)	増田 浩二 先生
	第 2 期 (平成 5 年度)			第 2 期 (平成 5 年度)	
	第 3 期 (平成 6 年度)			第 3 期 (平成 6 年度)	
2代	第 4 期 (平成 7 年度)	山本 秀夫 先生	2代	第 4 期 (平成 7 年度)	福田 眞也 先生
	第 5 期 (平成 8 年度)			第 5 期 (平成 8 年度)	
3代	第 6 期 (平成 9 年度)	増田 浩二 先生	3代	第 6 期 (平成 9 年度)	三和 彦幸 先生
	第 7 期 (平成 10 年度)			第 7 期 (平成 10 年度)	
4代	第 8 期 (平成 11 年度)	川島 正夫 先生	4代	第 8 期 (平成 11 年度)	中根堅次郎 先生
	第 9 期 (平成 12 年度)			第 9 期 (平成 12 年度)	
5代	第 10 期 (平成 13 年度)	木下 徳明 先生		第 10 期 (平成 13 年度)	
	第 11 期 (平成 14 年度)			第 11 期 (平成 14 年度)	

会 長			幹 事 長		
	在 任 期 間	氏 名		在 任 期 間	氏 名
6代	第12期（平成15年度） 第13期（平成16年度）	金井 一夫 先生	5代	第12期（平成15年度） 第13期（平成16年度） 第14期（平成17年度） 第15期（平成18年度）	後藤 徳彌 先生
7代	第14期（平成17年度） 第15期（平成18年度）	福田 眞也 先生			
8代	第16期（平成19年度） 第17期（平成20年度）	三和 彦幸 先生			
9代	第18期（平成21年度） 第19期（平成22年度）	宮内 忍 先生	6代	第16期（平成19年度） 第17期（平成20年度） 第18期（平成21年度） 第19期（平成22年度）	柏崎 周弘 先生
10代	第20期（平成23年度） 第22期（平成24年度）	遠藤 忠宏 先生			
11代	第23期（平成25年度） 第24期（平成26年度）	伊藤 大義 先生			
12代	第25期（平成27年度） 第26期（平成28年度）	黒田 克司 先生	7代	第20期（平成23年度） 第22期（平成24年度） 第23期（平成25年度） 第24期（平成26年度）	成田 智弘
13代	第27期（平成29年度） 第28期（平成30年度）	熊坂 博幸 先生			
14代	第29期（平成31年度）	成田 智弘			
8代	第25期（平成27年度） 第26期（平成28年度）		8代	第25期（平成27年度） 第26期（平成28年度）	河合 明弘 先生
9代	第27期（平成29年度） 第28期（平成30年度）				
10代	第29期（平成31年度）				
9代	第27期（平成29年度） 第28期（平成30年度）		9代	第27期（平成29年度） 第28期（平成30年度）	岸田 靖 先生
10代	第29期（平成31年度）				
			10代	第29期（平成31年度）	高津 明久 先生

近年、監査法人に勤務している方だけでなく、個人で開業されている方、事業会社に勤務している方、教育に携わっている方、退職後に監査役などになっている方、いずれの方々も非常に忙しくなっており、公認会計士白門会の行事になかなか参加できない方が増えてきています。また、公認会計士白門会の役員になっていただける方も少なくなりつつあり、役員になっても参加が難しいというケースも出てきていますので、役員数を増やし、手分けして会務を遂行することとしました。また、HPが十分に活用されておらず、十分な会務報告、情報提供ができていないことから、HPを充実させ、会員の皆様に役立つ情報提供に努めることとしました。改善は一步步ですが、任期の2年の間に着実に進めていきたいと考えています。

公認会計士白門会の会務の主なものとしては下記のものがあります。

### 1. 会報「絆」の発行

会報「絆」を年1回発行しています。掲載するテーマを決めて人選、原稿をお願いし、掲載用の写真の決定、編集作業、校正作業など手数がかかる作業を行っています。

### 2. 監査法人説明会の開催

中央大学経理研究所と共催し、監査法人説明会を開催し、後輩に悔いのない就職をしてもらうための就職支援を行っています。

### 3. 中央大学での特殊講義の提供

多摩校舎において、特殊講義のテーマを考え、人選し、後輩のために講義を行っています。全15回（半期）の講義のため講師を派遣しています。

本件については、週刊ダイヤモンドの2019年7月13日号でも取り上げられ、愛校心を支えているとの外部からの高い評価も得ています。

#### 4. 学会の監事監査支援

中央大学学会の監事監査を会計監査の専門家として支援しています。

#### 5. 十月会（大学対抗ゴルフ会）への参加及び参加者とりまとめ

毎年10月に行われる、大学対抗ゴルフ会への参加者を募集し、取りまとめ、運営幹事会に参加し、会の運営に貢献しています。

#### 6. 白門ゴルフ会への参加及び参加者のとりまとめ

毎年11月に開催されている白門ゴルフ会への参加者をとりまとめ、参加しています。

#### 7. 他大学の公認会計士会、会計人会の定時総会後の懇親会への参加

他大学の公認会計士会、会計人会との交流を図るため、当会の役員が手分けして多くの大学の公認会計士会、会計人会の定時総会後の懇親会に出席し懇親を深めています。当会の懇親会へも他大学の公認会計士会、会計人会の役員に出席していただいています。

#### 8. 日本公認会計士協会研究大会の懇親会に引き続き公認会計士白門会としての懇親会の開催

毎年、日本各地で行われる日本公認会計士協会の研究大会終了後、公認会計士白門会としての懇親会を開催し、地方の会員を含めて懇親及び情報交換を行っています。

#### 9. 賀詞交歓会の開催

毎年1月に賀詞交歓会を開催しています。

#### 10. 研修会の開催

会員の皆様の役に立つテーマを選定し、年に数回の研修会を主に賀詞交歓会や総会の前後に開催しています。

#### 11. 総会の開催

毎年の会務の報告、会計報告、役員を選任・退任等の議案の可決のため総会を開催しています。

#### 12. 事業報告の会員への送付

事業年度の報告、中間報告、決議状況の報告のため会員の皆様に決議通知を送付しています。

#### 13. 支部活動報告書の提出

公認会計士白門会の活動について支部活動報告書を作成し、学会に報告・提出しています。

#### 14. 大学開催の公認会計士試験合格祝賀会への参加

毎年12月に行われる中央大学主催の公認会計士試験合格祝賀会へ参加しています。

#### 15. 幹事会の開催

適宜、幹事会を開催し（概ね3か月に1度）、会務の企画・運営について話し合い、検討し、実行しています。

#### 16. HPの運営

公認会計士白門会のHPを開設し、情報提供に努めています。

これらの他にも過去に当会の名前（当時は「中央大学公認会計士会」）で書籍を出版したり、就職難の時には、一般事業会社を含めて就職の斡旋・紹介を行ったり、公認会計士白門会として日本公認会計士協会の理事を支援したり等々、中央大学出身の公認会計士の支援にとどまらず、また、中央大学及び中央大学OBのみならず、公認会計士業界全体の発展、そして日本経済の発展に積極的に寄与しているものと考えます。

主要な会務だけでも上述のように多岐に渡り、かつ、手数も掛かる中、皆様からの会費でなんとか運営させていただいている公認会計士白門会に対する皆様の継続的なご支援を切に願うばかりです。

## 会長任期を終了して

2019年7月5日、2年間の会長任期を終了し、成田新会長にバトンタッチしました。

岸田幹事長はじめ幹事の方々、その他多くの方にご協力いただき、なんとか任期を終えることができました。心より御礼申し上げます。

しかしながら就任時に考えていた課題については何も進展がなく、無力さを痛感しています。特に若い会員の増加という事については、2年間で数名の新規加入しかなく、一方、先輩会員の死亡退会等もかなりあり、会員数は減少が続いています。また、会費納入会員数は100名を割り込むような状況で、会費の値上げ検討が話題となっています。さらに総会・新年賀詞交換会等のイベントへの参加者も20名前後と盛り上がりません。憂うべき状況だと思いますが、このような状況は当会のみ状況ではないようです。

会長となり、他大学の公認会計士会であるとか、中央大学の他の士業の会、会計人会、司法書士会、社会保険労務士会、技術士会等の総会に出席しましたが、大部分の会ではやはり高齢化が進み、あまり盛り上がりがないように思われました。唯一の例外は公認会計士三田会でした。公認会計士三田会は年が明けて2月頃、銀座の交詢社にて合格祝賀会を兼ねた総会が行われ、盛大な懇親会が行われていました。各法人が競って新規合格者を参加させており、新規加入者も多数いるようでした。

公認会計士白門会  
前会長  
熊坂博幸



我が公認会計士白門会も何か新しい方法を考えて実行しないと、今の状況から脱却するのは難しいのではないかと思います。

また、もう一つの重要な問題は、公認会計士試験の合格者の伸び悩みです。合格者数首位の座を慶応大学に明け渡して50年近くになり、2位の早稲田大学も安定しており、3位以下が定位置になっています。

今回は12月の合格祝賀会の時に判明している中央大学の合格者は50<sup>(※)</sup>名に達していませんでした。前年より合格者総数が若干増加している中での状況ですので、4位以下になる可能性もかなり高いものと思われます。司法試験の合格者数も2012年の首位の後には2位が2回あるものの、4位、5位という年もあります。このような資格試験合格者の減少の原因の一つに八王子への移転が挙げられており、対策として法学部の都心移転が行われようとしています。商学部の都心移転は予定されていません。当面は現状のまま、大学、経理研究所等と協力して、合格者増への対応を考える必要があります。当会としても何か力になれることを実施していく必要があります。

成田新会長のもと、当会が活性化することを心より期待しており、私もできる限り協力していくつもりです。

(※)編注：その後、71名となっています。

# 最近の日本公認会計士協会の動向について

公認会計士白門会  
副会長  
武内清信



昨年7月の定期総会で手塚正彦会長のもと新執行部体制となり、「前進～未来へ」のスローガンのもと半年が経過しました。このスローガンには最近20年間は会計ビッグバンに始まり国内外での会計不祥事の発生に伴う対応に協会としても多くの時間と労力を割かなければならなかった実態があったが、今は大きな問題が発生していない状況下でじっくりと時間をかけ公認会計士・業界は社会に貢献し、社会からの信頼を築くためにどうあるべきかについて再検討を行いJICPA Visionの策定・SDGs促進も含め、実践につなげていくという想いが込められています。以下、最近の協会の動向について皆様にお伝えさせていただきます。

## ◆ローテーション制度

金融庁から監査法人のローテーション制度に関する調査報告（第二次報告）が2019年10月に公表され、それを契機に自民党企業会計小委員会が開催されることになりました。そこでは『チームメンバーローテーションの適切な運用により、「新たな視点（フレッシュアイ）」と「独立性」を確保しつつ、「十分な知識・経験」を活かした高品質な監査が可能となり、公益に資する』とする協会の考えについて説明を行い、委員会からリクエストのあった現場主査等のヒアリングへの対応を行いました。その結果、最終的にはファームローテーション制度の制定は見送られました。金融庁の調査報告と同日に現行のパートナーローテーションに加えて「独立性に関する指針」（2018年4月に改正）において2020年4月から適用されることとなった必要に応じて（セーフガードの観点）チームメンバーローテーションを適切に行うことを会員に求める会長声明を発出しました。さらには社会的影響度の大きな会社についてはチー

ムメンバーも含め10年での強制ローテーションを求める会長通牒（規範性あり）を2020年2月20日に発出しました。

## ◆IPO

IPOを目指す会社が監査を受嘱いただけないとの問題提起（2019年12月の日経新聞の記事等）がベンチャー企業関係者からなされ、国会議員等からも同様の指摘がありました。それに対応するため、金融庁は「株式新規上場に係る監査事務所を選任等に関する連絡協議会」を設置しました。協議会において協会はIPOには大手監査法人を含めしっかりと対応するものの、あまりにアーリーステージの会社からの申し出もあり、そのような会社についてはいきなりの監査ではなく助言サービスなどから対応することが現実的であることも理解いただく必要があるとの主張をしています。

## ◆会計基礎教育事業の充実

協会から文部科学省等への働き掛けもあり、次期学習指導要領解説において中学校の社会では2021年4月、高等学校の公民では2022年4月から「会計情報の活用」についての記載が追加されました。これにより、教科書にはそれらの項目が記載されますが、担当する教員にいかんにか生徒にわかりやすく説明いただくかが重要と考え、教員向け教材の作成に着手しており、啓発活動に取り組んでまいります。協会は国民への会計リテラシー向上支援は重要な施策と位置づけ3年前の協議会の設置から積極的に取り組んでいます。

## ◆公認会計士試験の状況

2019年は合格者が1337名のうち女性は315名となり合格者に占める女性比率は23.6%と過去最

高となりました。女性会計士活躍促進協議会では2030年までに合格者比率30%、2048年（公認会計士制度100周年）までに女性会員登録30%（現在15%）を掲げており、今回の合格率は非常に良い兆候ととらえています。また、平均年齢は25.2歳（前年は25.0歳）ですが、大学在籍中の合格者は39.8%と高い水準です。今回の中央大学の合格者数は昨年より若干ではありますが減少したようです。来年の大幅な増加に期待するところです。

#### ◆会費値上げとそれに伴う改革

2020年4月から本部会費が月額5千円から6千円へ値上げ、法定監査報酬に対する業務会費が1%（現行は0.8～1.5%）に統一されます。

公認会計士としての業務を行わない会員に対して会費を半額にする減額制度も導入されます。多くの組織内会計士の方が該当することになります。申請が必要となります。

その他、本部で行っているCPE研修受講料の無料化や弔慰金制度の見直しも予定されています。長期間にわたり普通会費は据え置かれてきましたが、公認会計士業務領域の拡大や監査への社会の期待を含む社会貢献に応じた協会業務の大幅な増加を踏まえた対応ということをご理解いただければと思います。

#### ◆社会福祉法人の公認会計士監査対象拡大の動向

2017年4月から導入された社会福祉法人に対する公認会計士監査は当初案では2019年4月から収益20億円超または負債40億円超の法人に範囲が拡大されることになっていましたが、自民党及び厚生労働省で慎重に検討が進められており、実現していません。厚生労働省からすでに実施されている社会福祉法人へのアンケートでは非常に高い割合で公認会計士監査は有益であるとの回答を得たことが公表されていることもあり、早期の範囲拡大に向けて協会は活動しています。

#### ◆監査上の主要な検討事項（KAM）

いよいよ、2020年3月から早期適用が開始されます。早期適用する企業数は想定よりもかなり

少ない見込みです。来年の原則適用にあたり監査人から会社との協議が開始されていないケースも一定数あることが判明し、早期適用の有無にかかわらず、円滑な導入に向けて直ちに取り組む必要がある旨の会長声明が2019年7月に発出されました。協会ホームページでは2020年1月からKAM導入に向けたセルフチェックなどのレターを出しています。

#### ◆継続的専門研修（CPE）履修状況

2018年度の履修義務達成割合は98.6%となり、前年度を少し下回る結果となりました。研修合計単位は満たしているものの法定監査従事者に求められる必須研修単位の不足など残念な履修未達成が増加しました。引き続き高い割合ではありますが、必須研修単位にも留意して皆さまの履修義務達成よろしくご厚意申し上げます。

#### ◆藤沼亜起氏 国際会計士連盟から表彰

2019年11月に中央大学出身の藤沼氏（元IFAC会長、元日本公認会計士協会会長）が国際的な会計専門職に対して顕著な貢献を果たした個人を表彰する賞として設定されたIFAC Global Leadership Awardを受賞され、12月には都内でIFACの現会長In-Ki氏（韓国：アジアからは藤沼氏に続いて2人目の会長）、金融庁をはじめ多くの関係者のご列席のもと盛大にパーティーが開催されました。藤沼氏に続き国際的にも大いに活躍する人物が中央大学から輩出されることを期待しております。

#### ◆最後に

公認会計士に対する社会の期待の広がりもあり、協会では委員会や地域会での活動が増加してきております。これらの会務は多くの皆さまの献身的なご尽力により支えられており感謝申し上げます。これからも公認会計士が社会からの信頼を得られるように、また公認会計士の魅力向上に向けて協会役員一同頑張っております。引き続き皆さまのご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

# 国際評価基準審議会 (IVSC) の動向から見る バリュエーション実務の課題 ～ 評価実務の世界が一新される2020年代の展望 ～



日本公認会計士協会  
IVSC 対応専門委員会専門委員  
中 嶋 克 久

## 1. 企業価値評価ニーズの高まりと評価資格制度の必要性

企業価値評価のニーズは、M & A、スタートアップ企業・ベンチャー企業における資金調達やストック・オプション、会計、事業承継など様々な局面にあり、企業価値評価は、あらゆる株式会社に必要とされています。また、会計上ものれんの減損やPPA、非上場株式の減損等の検討が求められ、会計業務においても企業価値評価の理解が重要な時代になりました。このように評価・バリュエーションが重視される現在において、国際評価基準審議会 (International Valuation Standards Council: IVSC) は、評価実務に携わる評価者の品質を一定に保つ仕組み (評価資格制度) を検討しています。

## 2. 評価実務の指針・基準と我が国における評価実務の課題

評価資格制度を構築するには、第一に、評価実務の指針・基準が必要です。IVSC は、リーマンショックを契機に従前より存在した国際評価基準 (IVS) の質を向上させるべきとの要請が高まり、近年、国際的に評価の質を上げる活動を加速し、国際評価基準 (International Valuation Standards: IVS) として IVS2017 を公表しました。その後、IVS は、毎年、基準を見直す方針をとり、最新版の IVS としては、2020 年 1 月 31 日から適用されるものが公表されています。

一方、我が国では、日本公認会計士協会が、評価実務の参考となる指針として、「企業価値評価ガイドライン」(2007 年公表、2013 年改正) を公表しています。2013 年改正は、不適切な企業価値評価 (公認会計士が、実現可能性が低い非現実

的な事業計画に基づいて高い企業価値を報告) を利用した不正会計が発覚したことに対応して、不正を防止する観点から改正したものです。主たる改正事項としては、評価業務に際して提供された情報の有用性及び利用可能性の検討・分析が重要であることを評価者に注意喚起したことがあげられます。

しかしながら、評価業務に従事する方々とディスカッションしてきた経験からは、2013 年改正の趣旨を理解する方は少なく、提供された情報の有用性及び利用可能性を検討・分析することなく、評価報告書を作成する評価者がいるのではないかと危惧しています。また、会計監査の過程で、「評価報告書」に基づいて適正な会計処理がなされているかどうかを検討する際にも、事業計画等の資料を所与として計算過程を確認するだけでは不十分であり、事業計画が非現実的なものかどうかを過去実績との比較等による分析やマネジメント・インタビュー等の対応により検討することが必要です。また、財務デューデリジェンスでの重要な検出事項が、評価業務において考慮されていることを確かめることも必要です。

また、評価業務を依頼する企業の方々に対して、このようなプロセスを実施する評価者を選ぶことが肝要である旨の啓蒙活動も必要であると思います。

## 3. 評価資格制度の必要性

第二に必要なことは、一定の品質を保持するための評価資格制度があげられます。IVSC は、近年、Quality Mark (評価人の資格制度) の検討に取り組んでいます (米国では既に2017年に評価資格制度 (Certified in Entity and Intangible Valuation : CEIV) を発足されていま

す。)。IVSCのQuality Markは、評価職業専門組織たる各機関や団体により、その会員に対して資格を付与するかたちでの運用が構想されています(会計監査ジャーナル2019年7月号「国際評価基準審議会(IVSC) Sir David Tweedie 議長に訊く～IVSCの活動と今後の展望について～」参照)。

我が国の評価職業専門組織は、不動産鑑定士協会連合会が存在するのみで、企業価値評価に関する評価職業専門組織は存在しておらず、企業価値評価に関する評価職業専門組織を組成することが課題としてあげられます。また、IVSCのQuality Markを前提にした企業価値評価に関する評価職業専門組織を立ち上げる際には、国際評価基準(IVS)に準拠した評価ができる者を会員にするため、我が国の評価者は、IVSに精通することが求められます。

#### 4. 終わりに

企業価値評価ニーズが高まる現在、国際的に評価実務の品質管理に対応する動きが加速されることが予想されます。公認会計士は、我が国の評価実務が国際的に信頼を得ることが喫緊の課題であることを認識し、評価実務の品質管理に関する制度化に対し積極的に関与すべきかと思います。

なお、日本公認会計士協会は、昨年、従前のパリュエーション専門委員会を改組し、IVSC対応専門委員会を立ち上げ、上記の課題に取り組んでいます。2020年代は、評価実務の世界が一新されるものと認識し、これらの動向を注視することが重要であることをご理解いただければ幸いに存じます。

### ◆公認会計士白門会役員◆

会 長	成田 智弘
副 会 長	山田 治彦
副 会 長	柴 毅
副 会 長	北方 宏樹
副 会 長	武内 清信
副 会 長	日高真理子
副 会 長	鷗高 利行
幹 事 長	高津 明久
副 幹 事 長	郡司 昌恭
副 幹 事 長	中原 國尋
副 幹 事 長	三宅 博人
幹 事	青木 幹雄
幹 事	家富 義則
幹 事	石野 研司
幹 事	加藤 暁光
幹 事	神野 敬司
幹 事	白髭 英一
幹 事	梶山 嘉洋
幹 事	畠中 隆徳
幹 事	降旗 京二

幹 事	町田 和宏
幹 事	森山 謙一
幹 事	若山巖太郎
幹 事	呉田 将史
会 計 監 事	岸田 靖
会 計 監 事	河合 明弘
相 談 役	増田 浩二
相 談 役	木下 徳明
相 談 役	金井 一夫
相 談 役	福田 眞也
相 談 役	三和 彦幸
相 談 役	宮内 忍
相 談 役	遠藤 忠宏
相 談 役	伊藤 大義
相 談 役	黒田 克司
相 談 役	熊坂 博幸
顧 問	中根堅次郎
顧 問	後藤 徳彌
顧 問	柏崎 周弘

# 日本公認会計士協会研究大会後の 公認会計士白門会の懇親会

公認会計士白門会  
会長

成田 智弘



本年度も毎年恒例の日本公認会計士協会研究大会後の公認会計士白門会の懇親会が開催されました。

令和元年9月18日、日本公認会計士協会研究大会千葉大会が幕張メッセで開催されました。千葉県は台風の被害により大変なときでしたが、1,500名を超える参加があり、支援のための募金活動も場行われました。しかしながら、場所が比較的東京に近く宿泊するまでではないこと、家に帰ることを考えると東京まで1時間、東京から自宅まで1時間の約2時間かかると考えて、懇親会に出席せず帰宅した方も少なくなかった中、有志により、今年も途絶えることなく、公認会計士白門会の懇親会が開催されました。

熊坂博幸公認会計士白門会前会長、山田治彦日本公認会計士協会前副会長から、今後の方向性に関するご提案や他校の会計士会・会計人会の動向などについての貴重なご意見並びに情報をいただきました。今後の会務に役立てていきたいと思っております。



お二方からは、公認会計士業界を良くしていきたいとの熱意のこもったお話もいただき、懇親会に出席していた北方宏樹日本公認会計士協会常務理事に業界のより一層の発展を託したものと思っております。



このような貴重な意見を伺えるとともに、若くても、年配でも、分け隔てなく、先輩が威張るのではなく、仲間、友人として相互の意見交換を通して貴重な経験を引き継いで行けるのが、当会の懇親会の最も良い所だと感じます。

公認会計士白門会は、異なる監査法人に勤務していたり、個人で開業していたり、コンサルティング会社を経営していたり、また、日本公認会計士協会の役員といった様々なメンバーが、友達のつながり、先輩後輩のつながりによって、成り立っています。似たような悩みを持つ相談仲間として、忌憚なく意見を言い合える仲間として、また、以前に同じような悩みを克服した先輩に助言していただける貴重な機会が懇親会の場であると思っております。



来年は北海道・札幌大会が9月11日に開催されます。札幌では多くの方の参加をお待ちしています。札幌でお会いしましょう。

# 2019年度中央大学公認会計士試験合格祝賀会

公認会計士白門会  
幹事  
梶山嘉洋



2019年12月13日に東京ガーデンパレス高千穂の間において、2019年度中央大学公認会計士試験合格者祝賀会が盛大に催されました。

2019年の公認会計士試験は、志願者数、合格者数ともに増加傾向に推移し、受験者数12,532名、最終合格者数1,337名（合格率10.7%）でした。そのうち、中央大学の卒業生、在学生を合わせた合格者数は71名（中央大学公認会計士白門会調べ）となりました。

祝賀会は、中央大学学長の福原紀彦氏による「今年も中央大学の伝統を引き継ぎ、合格者が成果を上げたことに関係者一同うれしく思っております。そしてさらに、合格者の後を追って、来年・再来年と成果を上げてくれる人たちが増えてくることを願っています。」との挨拶で始まりました。また、中央大学総長の酒井正三郎氏より「本学が大変力を入れ、中央大学の代名詞となってきた公認会計士試験で多数の合格者を輩出できたことを誇らしく思います。」との挨拶を頂きました。日本公認会計士協会副会長の武内清信氏からは「世界では非財務情報が注目されており、SDGsのような非財務情報に対する保証業務といった今後公認会計士に期待されている業務や、外国語の習得とともにグローバルに活躍していただきたい。公認会計士試験合格、ほんとうにおめでとうございます。」との祝辞を頂きました。乾杯は中央大学公認会計士白門会会長の成田智弘氏の音頭で盛大に行われました。

当日は公認会計士試験合格者32名が参加し、特に大学2年次合格者が4名、3年次合格者が6

名、4年次合格者が6名と中央大学の現役合格に向けた教育の成果が見受けられました。

初めは緊張の赴きで祝賀会に臨んでいた合格者たちも、歓談の時間には先輩方と分け隔てなく会話をする姿が見られ、中央大学という絆で結ばれた公認会計士同士の親睦を深めていました。また、皆一様に合格の喜びに満ちた晴れやかな表情でした。

合格者代表挨拶では、商学部3年生の吉本洋貴君がスピーチを行いました。スピーチでは、「高校在学時に公認会計士に憧れを抱き、公認会計士になる夢を実現すべく、中央大学に進学を決めました。大学の講義やチャレンジ奨学金による資金援助制度、経理研究所など、公認会計士試験に向けて勉強する環境が充実しており、また、公認会計士試験を目指す仲間も多く、切磋琢磨することができました。会計プロフェッショナルとしての自覚を持ち、謙虚な姿勢を忘れないよう肝に銘じたいと思います。」との話が印象的でした。

公認会計士を目指す環境の整った中央大学に進学したこと、また、中央大学で勉強できたことがよかったとの思いがスピーチから伝わってきました。

合格者にとっては、偉大なる諸先輩方と交わり、改めて合格を噛みしめた日になったのではないのでしょうか。公認会計士への道を踏み出した合格者たちが、社会の負託に応え、立派な公認会計士として様々な分野で活躍していくことを願っています。

# 合格体験記

商学部会計学科2年  
(合格時)

本 田 彩 乃



私は商業高校出身で、高校生の時から簿記の勉強を始め、学習を進めていくうちに会計の面白さや楽しさを実感し高校生活のほとんどを勉強に充てていました。そして、簿記の知識を活かせるとともにさらに会計について学び、将来は会計のスペシャリストとして活躍したいと思い、公認会計士試験合格者を多く輩出している中央大学に入学しました。

入学当初は、トップレベルの商業高校生たちと一緒に、同じ進捗で勉強をしていけるのかとても心配でした。また、最短の大学2年次合格を目標としたカリキュラムでしたが、自分が実現することができるのかとても不安でした。しかし、自らが決めた道であり精一杯勉学に励む覚悟があったため、大学の授業と会計士試験の勉強の両立に励みました。

短答式試験までは、会計学の計算や理論、そして新たな科目を学びました。高校生の時の勉強は理論を学習することはほとんどなかったので、理論科目に対する苦手意識がありました。しかし私は、講師の方や先輩方などが教えてくださった進捗通りに進めていたので、比較的時間に余裕があり、理論科目に充てる時間も多く確保することができました。そして、何度も繰り返し取り組み、自分の中での理解が進み理論科目の苦手意識も克服できました。また、模擬試験を本試験と同様の

ルーティーンで受験し、受験回数を重ねたことで、本試験では一切焦ることなく適度な緊張感を持ち挑むことができました。その結果、1年の12月短答式試験を突破することができました。

短答式試験が終わると論文式試験の勉強を始めました。さらに新しい科目が加わり、科目数の増加により時間の使い方を問うようになり、効率の良い時間の使い方を模索しました。毎日やること、一週間のうち何回やることなど自分で計画を立てたり、その時々で目標となる成績を掲げたりして勉強をしていました。論文式試験までの道のりは思っていた以上に遠く、スランプに陥り成績が振るわなくなったり、勉強に身が入らなくなったりすることもありました。しかし、いつも周りで勉強をしている同級生や先輩方が私の心の支えであり、刺激を与えてくれました。

私が受験時代に大切にしていたことは、目標を持ち最後まで諦めずに努力することです。何かを成すためには小さな努力の積み重ねが必要であると思います。私は、人一倍合格に対する思いが強かったため、どんな時も諦めずに勉学に励むことができたのだと思います。今後も努力することを忘れずに様々なことに挑戦していきたいです。そして、早期合格できたことを強みにして残りの大学生活でさらに多くのことを吸収し、将来は会計士として活躍できるようになりたいです。

# 合格体験記

法学部4年  
(合格時)  
平井 政行



この度、私は令和元年公認会計士試験に合格することができました。

まず初めに、お世話になった中央大学経理研究所の関係者の皆様、家族にこの場をお借りして御礼申し上げます。

私が公認会計士になりたいと思ったのは、中学三年生の時でした。担任の先生が知り合いの公認会計士の先生を呼んで講演を開いてくださり、その講演を聞いていた私は公認会計士の仕事を魅力的に感じました。特に私は、自分の専門性を生かして社会に貢献することができる点に大きな魅力を感じました。大学受験は在学中に公認会計士試験合格を目指すために中央大学経理研究所に入所すべく、中央大学を受験しました。

その後、私は中央大学法学部に進学し、中央大学経理研究所で公認会計士試験の勉強を始めました。入学した年の6月の簿記検定で日商簿記検定2級に合格し、勉強の進捗は順調であるかのように思えました。しかし、私は勉強の効率がとても悪く、学習範囲が広がっていくにつれて成績が落ちていきました。

短答式試験に2回落ち、「私には公認会計士は向いていないのではないかと」思い始めていた頃、12月に経理研究所主催で行われた、その年に公認会計士試験に合格した先輩方による合格報告会がありました。その時、合格された先輩に私の勉強方法について相談に乗っていただきました。

また、専任講師の先生方にも勉強方法や勉強方針についてよく相談に乗っていただきました。毎週のように面談をしていただき、学習スケジュールや細かい勉強方法を教えていただきました。

その後、正しい学習方法を身につけることができたため、成績は面白いように伸びて行きました。

公認会計士試験に合格した今、振り返ってみると私はたくさんの人に支えられてこの合格にたどり着いたのだと強く感じます。中央大学経理研究所の先輩方が後輩に試験に関する相談にしっかりと乗ってくれる文化や受講生にしっかりと寄り添ってくれる専任講師の先生方の存在は、公認会計士試験受験生であった私にとっては、非常に心強く、私の合格にとってはなくてはならない存在でした。

この合格体験記を執筆している時、私は就職する監査法人が決まり、数日後には監査法人での新人研修が始まろうとしています。先輩方への感謝を忘れず、少しずつ恩返しができるように、公認会計士試験の合格はゴールではなく、あくまでもこれから始まる公認会計士人生のスタートであるという認識をしっかりと持ち、また新たな目標に向けて努力を積み重ねられるように精進していきたいです。

# 合格体験記

商学部会計学科3年  
(合格時)

吉元洋貴



私は熊本の商業高校出身で、部活動は簿記部に所属しその頃から簿記の勉強をしていました。簿記部では「日商簿記検定1級」合格を目標として学習に取り組んでいましたが、高校2年生の時、中央大学経理研究所の小島一富士先生のお話を聴く機会があり、公認会計士という職業を知り、会計のプロフェッショナルとして将来働きたいと思い公認会計士になることを志し、中央大学に進学しました。

私は中央大学に入学してから1年の12月短答式試験、2年の論文式試験に合格することを目標に日々学習を続けていましたが、結果は2年の5月短答式試験、3年の論文式試験で会計士試験に合格。私は短答式・論文式試験共に1回ずつ不合格を経験しています。

12月の短答式試験では、3点足りず不合格となり、模擬試験で負けたことのない友達に本試験で逆転され、悔しい思いをしました。2年の論文式試験では論文式試験に向けた準備期間がわずか3ヶ月なく私には3ヶ月はあまりにも短く、最善を尽くしたもののあと一步届かず不合格に終わりました。不合格の結果を知った時、期間が短かったのだから仕方がないと自分に言い訳をしていたものの、私と一緒にわずか3ヶ月の期間で勉強をしていた友達がほとんど合格したことを知り呆然としました。短答式試験不合格時に感じた悔しい思いを超えるほどのなんともいえない思いが段々

と込み上げていき、涙が止まりませんでした。一週間ほど食事が喉を通らず、水とゼリーだけを口にしていた日もありました。悔しいという思い、どうして自分だけ落ちたんだという思いが日に日に強く増していき他人の合格を妬んでしまう自分自身のことがとても嫌いでした。

短答式・論文式試験共に周りが合格していく中置いてけぼりを食らう私の心は徐々に荒んでいきましたが、そんな時に支えとなってくれたのが専任講師の先生とスタッフでした。専任講師の先生と会える日には必ず会い、勉強方法を聞いたり、模擬試験の成績についての相談をしモチベーションを上げてもらいました。スタッフには学習スケジュールの相談に乗ってもらい、勉強が捗らないときに励ましてもらっていました。私は多くの人に支えてもらえたことで無事公認会計士試験に合格することができたと思っています。

私は二度の不合格という苦い経験があったからこそ人間として一回りも二回りも大きく成長できたのではないかなと思います。順調に公認会計士試験に合格していれば今の私はいなかったと思います。今はまだ、公認会計士試験に合格した学生に過ぎません。会計のプロフェッショナルという自覚を持ち、謙虚な姿勢を忘れないよう肝に銘じたいと思います。そしてこれから先、会計士業界を先導し、盛り上げていけたらと思っています。

# 監査法人就職説明会・懇談会 (中央大学経理研究所及び本会共催) について

公認会計士白門会  
幹事長

高津 明久



2019年8月29日(木)に、中央大学駿河台記念館において、公認会計士試験の受験生(本学在学学生及び卒業生)を対象に、監査法人説明会(本学OB・OGによる監査法人説明会)が開催されました。この説明会は、本学公認会計士受験生の就職を支援するために、毎年継続して中央大学経

理研究所と共催しております。

本年は就職状況が概ね良好と思われるため、1回のみの開催となりました。(就職難と思われる年には、合格発表前の8月に加えて合格発表後の10月にも開催しております。)

当日のスケジュール・説明内容は以下の通りです。

## 【スケジュール】

- 10時00分～10時10分：公認会計士白門会 柴毅 副会長挨拶
- 10時10分～11時40分：PwC あらた有限責任監査法人
- 11時45分～13時15分：太陽有限責任監査法人
- 14時00分～15時30分：有限責任監査法人トーマツ
- 15時35分～17時05分：有限責任あずさ監査法人
- 17時10分～18時40分：EY 新日本有限責任監査法人



## 【説明内容】

- ・本学出身者がどのように活躍しているか。
- ・クライアントからどのような人材が評価されるか。
- ・監査法人におけるコンサルタントとしての業務について。
- ・公認会計士業務の広がりについて。
- ・今年度の採用方針や動向について。
- ・採用試験に向けてどのような準備をするべきか。
- ・面接評価のポイントについて。 など。



例年同様、多くの公認会計士受験生が、監査法人の具体的な業務内容、研修制度、人事制度をはじめ、それぞれの監査法人の特長等について熱心に尋ねる姿がありました。そして、それに中大OB・OGならではの視点から答える回答者から、受験生の皆さんは様々な事を学び取っていたように感じられました。

継続的に監査法人説明会が実施されており、中大OB・OGならではのノウハウを後輩の公認会

計士受験生に生の情報として伝えること

で、本学出身の受験生の本来の良さが就職活動においても発揮されていると聞いております。

この説明会をきっかけに、本学出身者の先輩・後輩の関係が強固なものとなり、当会へ入会される後輩が増える事を期待しております。



# 十月会・白門ゴルフ大会

公認会計士白門会  
副会長  
柴 毅



ゴルフ担当幹事の柴です。

## < CPA ゴルフ十月会 >

昨年10月、茨城ゴルフ倶楽部にて、第32回CPA ゴルフ十月会が開催予定でしたが、台風19号の影響により、ゴルフ場が閉鎖となり中止となりました。当校が幹事でしたので、引き続き今年度も幹事を引き受けることとなっております。

ゴルフのお好きな会員の皆様には、是非積極的な参加をお願いします。

## < 第29回白門ゴルフ大会 >

白門ゴルフ大会は、令和元年11月8日(金)に桜ヶ丘カントリークラブで参加者総数90名、参加チーム26チームに当会から3名、1チームが参加いたしました。職域会で参加したのは当会と司法書士白門会の2会だけでした。

当日は、晴天であり、風もあまり強くなく、絶好のゴルフ日和でした。

当会としての参加者3名(黒田氏、霧生氏、柴)他会から佐藤氏が参加し、4名のみの参加となっております。成績は、霧生氏の頑張りもありましたが、下記の通りとなっております。

チームの上位3人ずつで争うチーム戦の優勝チームのネット計は216.2でしたが、我々は230.8でHCに恵まれず9位でした。



チーム名	参加者名 NET	参加者名 NET	参加者名 NET	合計
会計士白門会	黒田克司	霧生 卓	柴 毅	230.8
	80.2	73.2	77.4	

## シンフォニー・ランチクルーズ (賀詞交歓会)

令和2年1月25日に、駿河台記念館閉館に伴い、従来とは趣旨を変え、賀詞交歓会をシンフォニー・ランチクルーズといたしました。総勢16名と例年よりも少ない出席者数ではありましたが、多くの若手や遠方である宇都宮から、内野直忠様、浩子様ご夫妻にもご参加いただきました。



## 和令元年公認会計士試験 出身大学別合格者数

1位 (1)	慶應義塾大学	183	(144)	6 (6)	京都大学	38	(39)
2 (2)	早稲田大学	105	(115)	6 (6)	立命館大学	38	(39)
3 (3)	明治大学	81	(77)	8 (—)	神戸大学	36	(—)
4 (3)	中央大学	71	(77)	9 (8)	一橋大学	34	(37)
5 (5)	東京大学	40	(43)	9 (—)	法政大学	34	(—)

( ) は前年順位及び人数

他大学の人数は日本公認会計士協会提供データを参考に当会にて調査 (2019年12月27日現在判明数)

各大学数字は、学部卒業および在学者のみ (大学院を除く)

### ◆会費納入のお礼◆

会費の納入ありがとうございました。

(令和元年12月末までにお振込みいただいた方を掲載させていただいております。)

秋山 一正様	加藤 久子様	篠原 通夫様	成田 智弘様	宮本 嘉興様
阿部 勲様	金井 一夫様	柴 毅様	野口 孝史様	三和 彦幸様
阿部 紘武様	神山 敏夫様	清水 善規様	野崎 一彦様	村田 英孝様
荒木 幸介様	河合 明弘様	白石 雅敏様	畠田 洋平様	森崎 実様
荒木 正文様	軒澤 力様	椛山 嘉洋様	秦野 晃郎様	森下 隆之様
石崎 國夫様	北方 宏樹様	鈴木 輝夫様	埴 善光様	森杉 美保様
石沢 裕一様	北村 敬子様	関 功様	早坂 昇一様	森谷伊三男様
市川 育義様	北村 信彦様	大徳 宏教様	治田 秀夫様	森村 洋介様
伊藤 醇様	木下 徳明様	瀧崎 章夫様	樋口 幸一様	森山 昭彦様
伊藤 大義様	木村喜久男様	武井 正彦様	日高真理子様	森山 謙一様
稲葉 欣久様	木村 好己様	武内 清信様	蛭川 俊也様	山内 紘二様
稲山十四助様	木本 英男様	田中 勝男様	廣瀬 一雄様	山岸 博様
今井 靖容様	霧生 卓様	田中 範雄様	福田 眞也様	山口 修様
上澤 武司様	窪田 健一様	塚田 知信様	藤沼 亜起様	山口 善久様
上原 佑介様	熊坂 博幸様	常山 邦雄様	藤林由香里様	山田アヅバトケ様
内田 栄紀様	黒田 克司様	椿 勲様	船橋 健市様	山田 治彦様
遠藤 忠宏様	高津 明久様	鄭 英哲様	古屋 尚樹様	山野香奈子様
大嶋 良弘様	後藤 徳彌様	土井 英雄様	星野 紘紀様	山本 和夫様
大原 秀三様	小林 邦一様	富下 博文様	星野 幸夫様	吉井 敏昭様
大鷲 雅一様	昆 司様	外村 弘樹様	牧 憲俊様	吉田 京一様
岡崎 英雄様	斎藤 慶則様	長池 孝夫様	増岡 進様	渡辺 康之様
椋谷 隆夫様	齋藤 俊勝様	中嶋 克久様	増田 浩二様	綿貫 一子様
柏崎 周弘様	坂野 好邦様	永島 公郎様	三澤 壯義様	和田 芳幸様
糟谷 和彦様	櫻井 嘉雄様	長地 孝夫様	峯 敬様	
片山 隆一様	佐藤 俊一様	中西 清様	峯岸 芳幸様	
加藤 暁光様	佐藤 英志様	中村 英敏様	宮内 忍様	
加藤 厚様	塩原 修蔵様	鍋島 明人様	宮尾 克己様	

当編集後記を書いている2月下旬、新型コロナウイルスが世界中を騒がせており、企業活動への制約、インバウンドの減少や外出手控えによる社会経済への影響が懸念されています。早期に収束し、オリンピックイヤーである2020年が明るさを取り戻すことを願っています。

さて、本号では、巻頭にて有限責任あずさ監査法人理事長の高波博之氏より、「中央大学への思い」として、大学時代のゼミの思い出や在学中に学び現在も重要な判断をされるうえで指針とされていること等についてご寄稿頂きました。「今ある自分が一番良い選択の結果である」とし、常に自己肯定と「人生に無駄はない」というポジティブな思考は私自身も真似したいと思いました。

続いて、当会の成田智弘会長より会長就任の挨拶を頂きました。初代から現在に至るまでの歴代会長・幹事長、また、当会の1年間の活動内容を分かりやすくご紹介頂きました。成田会長へと引き継いだ熊坂博幸前会長からは2年間の会長任期を振り返って頂きました。

協会の役員であるとともに当会の副会長である武内清信氏からは、最近の日本公認会計士協会の動向として、会員の関心も高いであろうローテーション制度の検討状況やKAMに向けた準備等についてご報告頂きました。

中嶋克久氏からは、「国際評価基準審議会（IVSC）の動向からみるバリュエーション実務の課題」としてご寄稿頂きました。上場、非上場を問わずM&Aが活性化する中、公認会計士が企業価値評価に接する局面は増加していると思います。企業価値評価の評価資格制度の検討状況など

今後の動向から目が離せません。

昨年12月に開催された中央大学の公認会計士試験合格祝賀会の様子については、梶山嘉洋氏よりご報告頂きました。多数の合格者の中から、本田彩乃さん、平井政行さん、吉元洋貴さんの御三方にそれぞれ合格体験記をお寄せいただきました。公認会計士業界の将来を担う合格者の皆様の今後の活躍を心より願っております。

経理研究所と当会共催の監査法人就職説明会・懇談会について、高津明久幹事長よりご報告頂きました。今年は就職状況が概ね良好で1回のみの開催となったとのことです。今後も同様の状況が続くと良いと思います。

毎年恒例のゴルフ大会については、柴穀氏より、当日の様子が伝わる写真を含めてご報告頂きました。残念ながら今回は、台風により10月のCPAゴルフ大会は中止となってしまいましたが、来年も引き続き当会が幹事を引き受ける予定とのことです。ゴルフ好きな会員の方はぜひ奮ってご参加ください。

成田智弘会長からは、千葉で開催された公認会計士協会の研究大会とその後の懇親会についてご報告頂きました。来年は北海道での開催が予定されています。多くの会員にとって遠方となりますが、ぜひ美味しい料理に舌鼓を打ちながら先輩後輩で懇親を深めて頂ければと思います。

当会幹事一同、公認会計士白門会に入ってから良かったと思って頂けるよう微力ながら頑張っておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

公認会計士白門会会報 No.26

令和2年3月31日発行

発行人 公認会計士白門会会長

成 田 智 弘

発行所

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1  
中央大学経理研究所気付